

「カタカナ外来語はカッコイイ？」

授業内容

昨今、カタカナ外来語が巷に氾濫しています。日本語にそのモノを表す語彙が存在しない場合は、外国語からの借用は選択肢の一つですが、日本語の呼び名があるにもかかわらず、わざわざカタカナ外来語を宛てるという傾向も認められます。使い古された漢字の名称よりも、カタカナ外来語の方が新鮮な響きでカッコイイということなのでしょうか。しかし、意味もよくわからないままカタカナ外来語が多用されると、コミュニケーションに支障を来すだけでなく、思考の習慣が育まれないと案じられます。

ものの名前というのは、どのようにつけられているのでしょうか。単なる記号に過ぎないのでしょうか。カタカナ外来語の濫用という社会問題を通して、ものの名前の成り立ちについて考えていきます。

この講義で身につくこと

ものの名前、及び言葉の意味について考える習慣が身につくとともに、日本語に対する真摯な態度が育まれます。

所要時間

1時間



高崎商科大学
商学部
教授 渡邊 美代子

<専門分野>
認知意味論
認知言語学